

日時・場所：2013年7月23日(火)13時半～16時・EMG マーケティング合同会社会議室

出席（敬称略）：橋本、山田、保利、熊谷、村田、田中（オブザーバー）

検討結果 - 個人曝露濃度の日間変動の扱い

- ・日間変動、作業者間変動などの変動について、考慮を行いながらばく露測定を進めることを求めることにする。（本委員会の報告の本文、または補足文書に記載する。）
- ・変動の要因に3種類あること、その概略の大きさを解説する。
- ・単純な数値調整( $\sigma=1.95$ など)はしない。
- ・どのように「考慮」するのか、例を挙げるなどして解説する。
- ・例：1日測定で、区分2Aに近い1、または2Bに近い2A、になった場合は、日間変動を考慮すると区分が変わる（悪化する）可能性が大きくなるため、慎重な判断が必要。こういう場合は、（別の日に）追加測定を行う選択肢もある。
  - 仮に日間変動（ $\sigma=1.95$ の調整）を考慮すると、前者の場合、 $X_{95}$ が1.36～1.56倍になること（ $\sigma$ の大きさにより変わる）、後者の場合、 $Ma$ が1.25倍になることを、考え方の根拠として記述する。
  - 但し、これは考え方の根拠（背景）であり、得たデータに機械的にこのような係数を掛けて用いるという意味ではない。
- ・作業者間変動などについても同様な考慮を行うこととする。（1人だけを複数日に渡って測定したケースなど）
- ・なお、似たような「慎重な判断」は、サンプル数が少ない、測定時間が短いといった場合で、ばく露区分が境界に近い場合にも必要となるだろう。

以上